



学校だより 7月号

横浜市立日下小学校 令和5年 6月30日

夢に向かって ともに歩み 未来を拓く 日下小

日下小学校 ホームページURL

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hishita>

「言葉の力」

校長 渡邊 勉

早いもので、4月の始業式から3か月が経ち、夏休みまであと3週間となりました。6月19日には、プール開きが行われ、水泳学習が始まりました。梅雨の晴れ間に子どもたちの元気な声がプールから聞こえてきます。安全に気を付けて、この時期ならではの水泳学習を思い切り楽しみ、力を付けてほしいと思います。

さて、6月22日の授業参観にお越しいただきありがとうございました。保護者の方々を気にして後ろを見る子もいましたが、多くの子どもたちは張り切って学習に取り組んでいたと思います。皆様の参観が子どもたちのやる気を引き出していたのではないかと思います。参観いただきありがとうございました。

6月16日に港南公会堂で区国際平和スピーチコンテストが開催され、各小学校の代表児童によるスピーチを聴く機会がありました。日下小学校からは6年生の滝本結菜さんが参加し、「服の力で世界を笑顔に」という演題でスピーチを行いました。

滝本さんのスピーチの素晴らしさは、考えだけを述べるのではなく、本人の体験に基づいて構成されていること、そして本人の想いが語られていることです。だから心に響いてきました。また、20校の代表児童もSDGsの17の目標に関連した自分のスピーチを堂々とした態度で伝えていました。自分の想いを言葉にして伝える大切さと言葉の力を感じる一日となりました。

学校では、子どもたちに言葉の使い方を考えさせる上で「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」を使って指導することがあります。「ふわふわ言葉」は、言われると嬉しい言葉で「ありがとう。ごめんね。すごいね。一緒に遊ぼう。仲良くしようね。楽しいね。等々…」というものです。反対に「ちくちく言葉」は、言われると悲しい言葉、傷つく言葉です。子どもたちには、「ちくちく言葉」ではなく、「ふわふわ言葉」を使っていこうと話をしていますが、子どもたちに影響を与える私たち大人も日常で使う言葉を大切にしなければならぬと改めて感じています。

「その一言」

その一言で励まされ その一言で夢をもち その一言で腹が立ち
その一言でがっかり その一言で泣かされる ほんのわずかな一言が
不思議に大きな力をもつ ほんの一寸の一言で

この詩は、日本の幼児教育に貢献された高橋系吾さんの作といわれているものです。人間の言葉は、無限の可能性と大きな力を持っています。また、言葉は使い方によって、宝石よりも貴重なものにも凶器にもなりうるものです。言葉の力をしっかり認識し、子どもたちが自分や友達に多くのふわふわ言葉を伝えられるよう、そして言葉による伝え合いが上手に豊かになっていくよう、今後も支援していきたいと思えます。